

第8話：統計資料からサバ缶ブームをみる

日本水産缶詰輸出水産業組合・日本水産缶詰工業協同組合
専務理事 松浦 勉

「サバ缶詰を食べよう」では、第1話が「テレビ番組によりサバ缶詰人気上昇」、第2話が「消費拡大に伴うサバ缶詰の新商品開発」、第3話が「中央水産研究所のサバ缶マニア」、第4話が「サバ缶詰を使ったご当地料理」、第5話が「レシピ本にみるサバ缶詰料理」、第6話が「サバ缶詰レシピ本の出版動向」、第7話が「レシピ本とテレビ番組がきっかけを作ったサバ缶ブーム」についてお話させていただきました。今回は、「統計資料からサバ缶ブームをみる」についてです。

図1に、総務省家計調査報告における魚介缶詰の1世帯・月当たり支出金額の推移を示しました。魚介缶詰の1世帯当たり年間支出金額は、2016年が2,484円、2017年が2,593円とあまり増加しなかったが、2018年には2,891円と大幅に増加しました。2016年から2019年までを月別にみると、2017年8月までは前年同月比があまり変わりませんでした。2017年9月以降増加に転じ、特に2018年12月には前年同月比87円増となりました。直近の2019年3月も前年同月比50円増であり、魚介缶詰の支出金額の増加が継続しています。

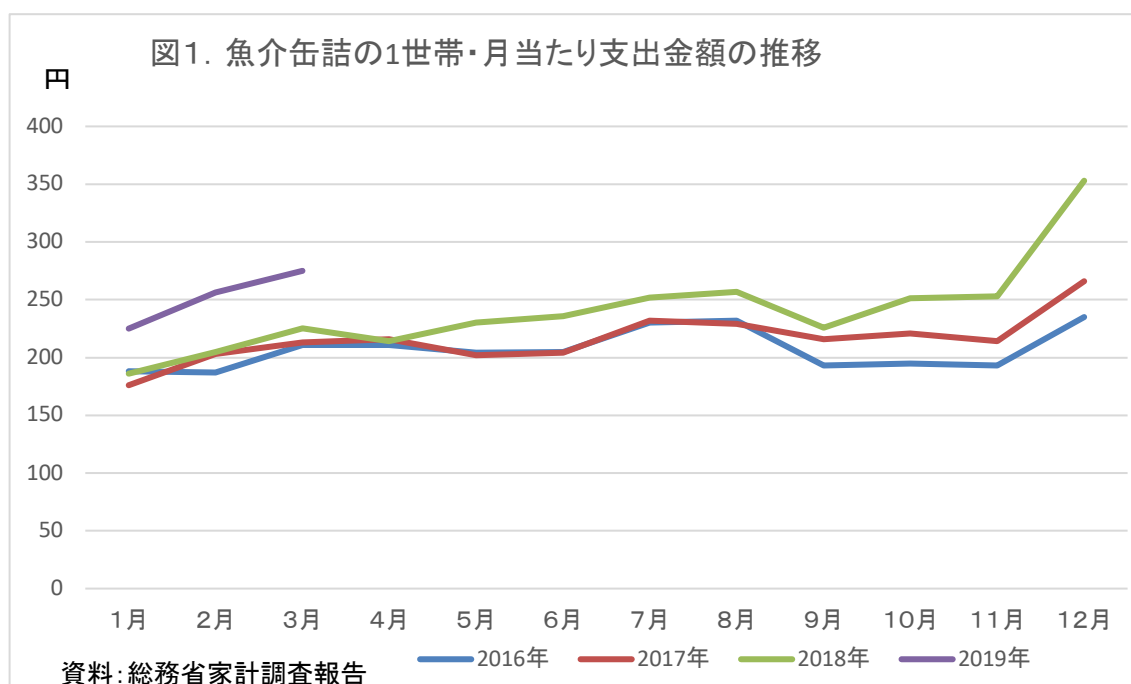


表1に、水産缶詰（マグロ・カツオ以外）の上位50品目について、参考に2019年3月

の販売金額を事例として示しました。この表は、株式会社「KSP-SP」の「KSP-POS」のPOSデータに基づき作成したものであり、全国の主要な食品スーパーマーケットのPOSデータ（店のレジでの商品売上実績データ）を収集して取りまとめたものです。月単位で販売金額の多い上位50品目のサバ缶、イワシ缶、サンマ缶などの商品別販売金額とともに、上位50品目を含むすべての合計販売金額も掲載されています。

表1. 水産缶詰（マグロ・カツオ以外）上位50品目の販売金額
（2019年3月）（No11～39を省略）

No	企業名	商品名	販売金額(円)
1	マルハニチロ	マルハ 月花さば水煮 200g	7,175,259
2	マルハニチロ	マルハニチロ さば水煮 EO6 190g	7,128,483
3	宝幸	宝幸 さば水煮 EO6号缶 190g	6,374,667
4	マルハニチロ	マルハ さんま蒲焼 100g	6,280,454
5	マルハニチロ	マルハニチロ さばみそ煮 EO6 190g	5,840,245
6	マルハニチロ	マルハ 月花さばみそ煮 200g	5,286,503
7	マルハニチロ	マルハ いわし蒲焼 EOK5A 100g	5,068,795
8	宝幸	宝幸 さばみそ煮 EO6号缶 190g	4,853,092
9	ノルウェイク・インターナショナル	ノルウェイク さば缶水煮 150g	4,835,961
10	日本水産	ニッスイ SABA さば水煮 缶 150g	4,213,219
	(略)	(略)	
40	極洋	極洋 さば水煮 EO 6号缶 190g	1,785,422
41	日本水産	ニッスイ さば味付 EO T2 缶 190g	1,685,603
42	日本水産	ニッスイ いか味付 130g	1,596,465
43	日本水産	ニッスイ スルツとさば味付減塩 缶 190g	1,588,272
44	マルハニチロ	マルハ さんま蒲焼3S 100g×3	1,587,784
45	マルハニチロ	あけぼの あさり水煮 EO8 130g	1,526,156
46	極洋	極洋 さば味噌煮 EO6号 缶 190g	1,492,425
47	シジシージャパン	CGC さばみそ煮 6号缶	1,453,716
48	極洋	極洋 さば水煮EOK 150g	1,426,494
49	マルハニチロ	マルハニチロ 減塩さば水煮N EO6号 190g	1,420,216
50	極洋	極洋 シーマルシェ いわし蒲焼タイ産 90g	1,414,876
		上位50品目の合計	74,034,107
		すべての水産缶詰(マグロ・カツオ以外)の合計	306,139,493

出典: KSP-POS(缶詰時報、2019年5月)

水産缶詰は、POS データの統計上、「マグロ・カツオ以外」と「マグロ・カツオ」に区分されています。図 2 に「マグロ・カツオ以外」と「マグロ・カツオ」の水産缶詰について、上位 50 品目を含むすべての水産缶詰の合計販売金額の推移を示しました。2017 年の POS データにおけるすべての水産缶詰の合計販売金額は年間約 50 億円でした。2017 年におけるすべての水産缶詰の年間国内販売金額（推定）が約 1,500 億円なので、この POS データの約 50 億円は、年間国内販売金額の約 30 分の 1 に相当します。図 1 の 1 世帯の支出額の推移と、図 2 の POS データの合計販売金額の折れ線グラフがほとんど一致しています。

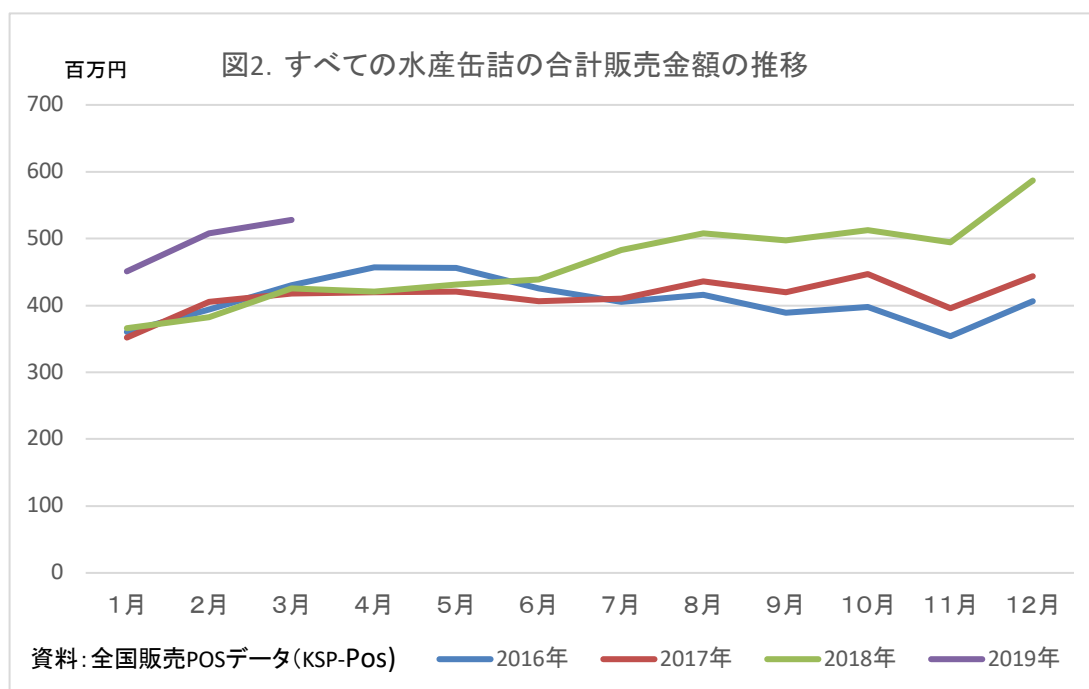
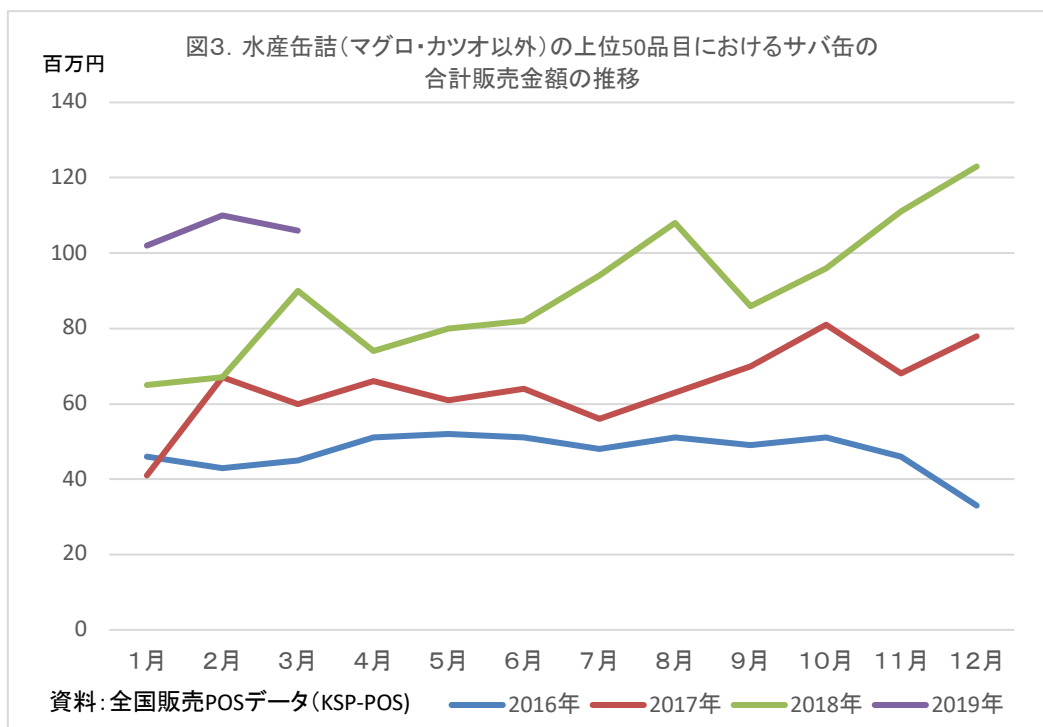


図 3 に、水産缶詰（マグロ・カツオ以外）の上位 50 品目におけるサバ缶の合計販売金額の推移を示しました。2016 年と 2017 年をみると、2017 年のサバ缶販売金額はすべての月において、前年を上回っており、特に 9 月以降の格差が大きくなっています。また、2017 年と 2018 年をみると、2 月を除くすべての月で、2018 年の方が上回っています。さらに、2019 年（1 月～3 月）の販売金額も前年を上回っています。年間において、サバ缶合計販売金額が最も多い月は、2016 年が 5 月、2017 年が 10 月、2018 年が 12 月でした。

図 2 に示したすべての水産缶詰の合計販売金額の増加は、図 3 に示したサバ缶の合計販売金額の増加により生じているようです。



最後に、海外からのサバ缶輸入量の統計をみることにします。日本が輸入するサバ缶は、これまで少なかったのですが、サバ缶ブームによる国内需要の増加により増えています。しかし、財務省の貿易統計には、サバ缶輸入量の単独コード番号がありません。サバ缶は、サバ調製品（コード番号が 1604.15-000）の中に、サバみりん干しなどとともに含まれています。

このため、サバ缶の輸入量が多いタイ、ベトナム、中国におけるサバ調製品の輸入量をみると、2016年と2017年には増減があまりみられませんが、2018年以降大幅に増加しました。このため、(2018年と2019年の輸入量)から(2016年と2017年の平均輸入量)を差し引いた増加分をサバ缶主体の輸入量として扱い、表2に、日本におけるサバ調整品(サバ缶を含む)の輸入量の推移を示しました。

サバ缶の輸入量は、タイとベトナム、中国では2018年の前半から、マレーシアと韓国、デンマークでは2018年後半から、フィリピンでは2019年になって、それぞれ増加しました。

アジア関係国から輸入したサバ缶は、中国以外では、日本から輸出された冷凍サバが原料として使用されています。中国では、北太平洋海域で自国船が漁獲したサバが原料として利用されているようです。2019年3月にも、サバ缶がアジア関係国から多く輸入されており、今後とも相当量輸入されることが予想されます。アジア関係国からの輸入サバ缶は、国内産サバ缶よりも低い価格で販売されています。なお、デンマークのサバ缶は、大西洋サバを使用し身肉が燻され、胡椒で味付けされた高級品です。

表 2. 日本におけるサバ調製品（サバ缶を含む）輸入量の推移

西暦年月		韓国	中国	ベトナム	タイ	マレーシア	フィリピン	デンマーク	単位 :ト
2018年	1月			17					
	2月			128	63		3		
	3月			6	82				
	4月			84	67		12		
	5月		76	130	106				
	6月		42	182	24				
	7月		89	219	231				
	8月		26	368	376				
	9月		144	153	463				
	10月		490	418	724	32			29
	11月	58	529	315	799	31			54
	12月	86	720	277	1,030	47			28
2019年	1月		1,162	466	1,313	15	44	18	
	2月	71	757	376	1,443	62	150	20	
	3月	29	1,323	623	1,886	47	105	65	

注 1) 財務省貿易統計。サバ調製品（サバ缶を含む）のコード番号 :1604.15-000
注 2) 輸入量の計算式) = 2018年・2019年の輸入量) - 2016年と2017年の平均輸入量)

次回は、「サバ缶ブーム下での他の水産缶詰の販売動向」について、ご紹介します。引き続き、よろしく申し上げます。